

沖繩奪還・安保粉碎・日帝打倒まで

内乱的死闘の七〇年代を闘いぬこう

杉並の労働者諸君！

激動の時代、支配階級と被支配階級が、それぞれの総力をあけて倒すか倒されるか、荒ら荒らしい階級戦をくりひろげることを常態とする時代＝一九七〇年代の幕はあがった。

杉並のすべての労働者諸君！

杉並反戦青年委員会は、困難な、しかし、性根を握れば労働者階級にとって真にやりがいのある時代へ向つて闘いの決意を込めて訴える。

十一月決戦の勝利は七〇年闘争を切り拓いた

十一月の佐藤訪米阻止決戦は、力をもつて新しい時代をコソ開けた。一九七〇年は、単に歴の上でめぐつて来ただけではない。どのような内容の時代にするか、これこそ十一月決戦にかけられていたものだ。数百名の反戦労働者が現実に獄中で弾圧と闘いつつ年を迎えている。しかし、われわれはこの多大な犠牲を決して無に帰することなく新たな内乱的死闘の時代へ突き進む力と確信に満ちあふれている。

何故か？何よりもそれは闘いが一切の反動的な力を打かえして闘い抜かれたからだ。機動隊の力を極限まで展開した警備、自衛隊のヘリコプター、日共も警視庁と一緒に組織し、先頭に立つた反動的民衆自衛団、マスコミの反動キャンペーン、三千五百の逮捕者等等ありとあらゆる壁を打ち破つて闘いの火柱をうちたてたからだ。佐藤首相は一国の宰相としての威信を打ちくだかれて、こそ泥の如くに飛びたつた。さらにわれわれの闘いが敵の心臓に迫っているからだ。安保・沖繩問題こそそれである。

ベトナムでの米軍の敗退の危機の積みかさなりとドル危機の中で、沖繩県民の本土復帰闘争のたかまりと米軍支配の破綻。これを何としてでもくいとめることこそ、日米共同声明の目的であつた。「七二年、核抜き、本土なみ」という沖繩政策への「民意」結果は、本土の沖繩化をもつてする「安保新体制」の重要な前提条件であつた。

しかしこの「前提条件」はここのように粉碎された。国論は二分されその間の議会的調整は、不可能である。安保沖繩問題を争点とした年末選挙で史上最低の投票率だつたことは、もはや国会の中ではこの日本の最重要事が決まらぬことを示している。まさに労働者階級の実力闘争こそ政治を決定する。

沖繩問題こそ日帝のアキレス腱

日本帝国主義は沖繩安保問題をもはや解決することはできない。沖繩全軍労に対する首切りは「沖繩は米軍の基地だけでいい。沖繩県民はここでのたれ死するか、本土へ出かせきにゆけばよい」というにひとしいのだ。それと同時に本土における三里塚軍事空港の建設を頂点とする基地機能の強化、本土の沖繩化による総基地化は文字通り、アジアの危機に直接不可分に係り、侵略の最前線をなすことだ。

本土沖繩を貫く闘いが日帝のアジア侵略の意図を粉碎し、沖繩奪還・安保粉碎、日帝打倒までゆかさざるを得ない必然性と確信、こ

れこそ反戦派労働者の決意を裏面で支えたものなのだ。

職場で地域で犠牲者をまもり、不当弾圧反対の闘いを！

支配階級を打倒する任務こそ労働者のやるべきことだ。自衛隊の中ですら小西三曹が反戦の闘いを起し、農民のなかにかえ農民反戦が築き上げられているとき、闘わんとする労働者はすべて反戦に結集しよう。

岩通では起訴された河合君が不当首切りをされた。全連杉並でも藤本君の首切りが予想される。

武器をとつて闘うことは労働者にとって当然のことだ。郵便車を駆つて戦場に向い、工場や研究所で武器をつくり、大換して軍団を繰り出すような闘いの質を自指さなければならない。支配階級が金にあかして武装するのに労働者は素手で闘えるはずがないではないか。武器をとることをおそれるものは、奴隷の身に甘んじているものなのだ。

杉並反戦の被告諸君は、十一月闘争に全てをかけて勇敢に闘つた。これに対する権力の、不当逮捕、起訴、拘留を弾劾するとともに、現場で逮捕されたのに証拠インメソのおそれありとか、戦場へ戻つて闘うといっているのに逃亡のおそれありとかいう理由だけで拘留しているのだ。資本・当局からの首切り、休職等の処分を直ちに反撃しよう。

杉並反戦青年委員会はこの不当な処分に対して断固として闘うことをすべての労働者に訴える。獄中でのリンチに耐え、あくまで闘いをつづける者に加えられた弾圧を認めることは労働者の、労働組合の権利を放棄するものだ。直ちに職場で抗議の声をあげよう！カンパを訴えよう。

獄中より

杉並反戦(全連杉並) 藤本繁一

まず、十一月決戦の勝利と七〇年六月安保決戦の大爆発へのゆるぎない確信をもつて、完全黙秘を貫きとおしていることを報告します。シユアプレヒコールやインター合唱を理由に上野署から機動隊早稲田分駐所へ移管されました。その際は髪をつかんで振り回される等の暴行を受け、また現在は連日四名の私服に取囲まれて長時間の「追求」を受けています。しかし、これらの事は外界から遮断された僕らに僕らの闘いに対する権力の恐怖とあせりを知らせてくれる以外の何物でもありません。差入れ、面会にきていただいた救済会の方々に感謝すると共に三里塚決戦勝利と杉並反戦の飛躍的強化の報せこそ最上の「はげまし」である事を、みなさんに訴えて獄中からのたよりを終ります。

佐藤訪米阻止杉並反戦被告団

△一〇・二一闘争▽		島 正彦	22才	日本特殊鋼
大矢尙正		26才	外産ブリンズ社	杉並反戦
図章太郎		25才	杉並反戦	杉並反戦
△一一・一六闘争▽		伊藤正明	27才	杉並反戦
河合直明		20才	杉岩通信機労組	杉並反戦
藤本繁一		20才	全連杉並支部	杉並反戦
		原田茂正	21才	杉並反戦
		西巻紀美子	24才	八州電機
		田中一夫	22才	杉並反戦